

若桜街道で

交通実験を行います

「市中心の交通体系」から「歩行者中心の交通体系」に転換し、中心市街地に賑わいを取り戻します。

問い合わせ先 市役所本庁舎都市企画課市街地整備室

TEL 0857-20-3278

実験の目的

中心市街地の活性化には、商店街の魅力アップが欠かせません。街なか交通実験は、家族連れやお年寄りなどの歩行者が、自転車に危険を感じたり邪魔されたりすることなく、のびのびと安全、快適に通行できる環境を創出し、それを検証することで将来のまちづくりにつなげることを目的とします。

実験の概要

・自転車の通行空間を現在の車道の一部に確保し、**自転車**を歩行者から分離すること
で、双方に安心で安全な空間を提供します。

・自転車の通らない歩道を活用して、**街歩きを体感する**イベントや、**商店街の魅力**を再発見する取り組みを行います。
(詳細は市報11月号)

・イスやベンチを置いて休憩スペースをつくるなど、**商店街の魅力**を向上させます。

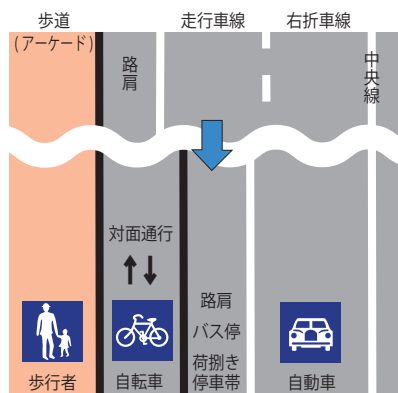
・自転車の利用者に配慮して、**駐輪スペースを設置**します。

・歩行者や自転車、自動車の通行量調査、アンケート調査などを実施し、**通行者と商店街への影響と効果**について検証します。

鳥取街なか・賑わいのまちづくり
実証事業（街なか交通実験）

期間：11月15日（月）
～12月12日（日）

場所：鳥取駅前交差点
～若桜橋南交差点



鳥取駅周辺都市改造 30 周年記念事業 まち・えき・のりものフェスタ

鳥取駅の高架化にともない、昭和55年に駅前広場が造成されてから今年でちょうど30周年となります。また、今年は駅前商店街のアーケード改修工事が完了し、鳥取駅北口広場が整備されました。これらを記念して、次のとおりイベントを開催します。

■記念セレモニー

と き：10月31日（日）13:00～

ところ：JR 鳥取駅前ケヤキ広場

■シンポジウム

と き：10月31日（日）14:00～

ところ：ワシントンホテル

■アトラクション・展示（JR 鳥取駅北口広場周辺）

▷ 10月30日（土）～31日（日）10:00～17:00

鳥取駅体験ツアー／鉄道コーナー／昔の乗り物大集合（かご、人力車）／ボンネットバス展示／公共交通などに関するクイズラリー

▷ 10月30日（土）～11月7日（日）10:00～17:00

・駅周辺今昔の写真、公共交通のパネル展

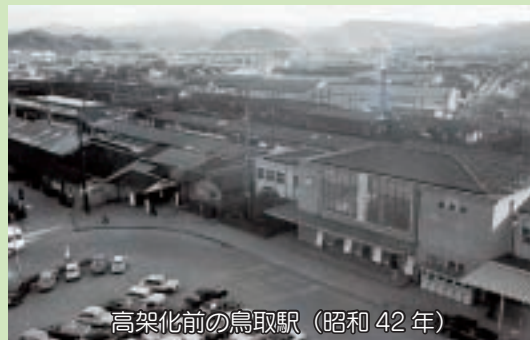
・鉄道Nゲージジオラマ展 ・ケヤキ広場ライトアップ

問い合わせ先 鳥取駅周辺都市改造 30 周年記念事業実行委員会

事務局（市役所市街地整備室内）TEL 0857-20-3278

駅周辺都市改造事業の歴史

昭和44年	5月	土地区画整理事業施行区域の都市計画決定
昭和45年	3月	都市高速鉄道都市計画決定
昭和46年	10月	鳥取駅前栄町火災発生
昭和48年	2月	駅高架化工事着手
昭和53年	11月	駅高架開通
昭和54年	10月	シャミネ鳥取オープン
昭和55年	8月	駅前広場、地下道供用開始
昭和56年	11月	駅高架・都市改造完成記念式典



高架化前の鳥取駅（昭和42年）

急がれる市庁舎の耐震対策

市議会調査特別委員会・庁舎耐震対策検討委員会の報告

問い合わせ先

市役所本庁舎財産管理課 ☎ 0857-20-3112

市議会調査特別委員会の最終報告

本市の本庁舎および第二庁舎は建築後 40 数年を経過しており、平成 20 年度、21 年度に耐震診断を行ったところ、大規模な地震が発生した場合、倒壊、または崩壊する危険性があるという結果が出ました。

このため、市庁舎の耐震対策が急務となっています。

市議会は、平成 21 年 2 月に「鳥取市庁舎等に関する調査特別委員会」を設置し、15 回にわたり調査研究を重ね、9 月 17 日に最終報告を行いました。内容は、▽免震型耐震改修は結果として二重投資になるので新築を推進すべき▽平成 26 年度まで活用が認められている合併特例債を財源の柱とすべき▽庁舎規模については庁舎機能が分散していることから、市民サービス向上のためにも 1 カ所に統合すべきといったものでした。

「将来の高齢化時代に対応す建設候補地については、

庁舎耐震対策検討委員会での検討

そのためにも公共交通機関の結節点である駅周辺にという意見」が多くありました。その他、「現地建て替えの意見」や「市民アンケートを踏まえて決定すべきとの意見」もありました。

本市では、市庁舎の耐震対策について、市民代表、学識経験者など 10 人で構成する「鳥取市庁舎耐震対策検討委員会」を本年 6 月に設置し、8 月までに 3 回の会議を開催し検討しました。

検討委員会では、▽耐震改修を行ったとしても庁舎そのものの耐用年数は延びるものではない▽建物の耐用年数（65 年）となる 20 年後には新築の検討が想定される▽庁舎が分散しており市民サービスに支障がある▽現庁舎は建設後 46 年経過しており十分役目を果たしている▽新しい庁舎の建築費用は約 90 億円と見込まれるが、今建て替えれば合併特例債を活用することができ、市の実質負担は 30 億円が示されました。

今後の取り組み

建設候補地としては、現在地という意見もありましたが、鳥取駅周辺（市立病院跡地、鳥取駅北口エリア）が適しているという意見が多くありました。

平成 22 年 5 月 1 日現在の庁舎概要

	本庁舎	第二庁舎	駅南庁舎	下水道庁舎
建築年月	S39 年 9 月	S43 年 4 月 ※ H 元年に取得	H 元年 11 月 ※ H17 年に取得	S53 年 4 月
経過年数	46 年	42 年	21 年	32 年
構造および階数	鉄筋コンクリート造 6 階建（地下 1 階）	鉄筋コンクリート造 5 階建（地下 1 階）	鉄筋鉄骨コンクリート造 6 階建（地下 1 階）	鉄筋コンクリート造 3 階建（地下 1 階）

※福祉文化会館、文化センター、さざんか会館にも一部の部署があります。

の機能を統合した新しい庁舎を建てることにより、市民のみなさんに対するサービスの向上と耐震性の高い安全な拠点を作ることが必要だとされています。また、立地については、公共交通機関の利便性などから鳥取駅周辺が適しているとの声が多かったとのこと。市としては、これらの報告に基づき、基礎調査、市民アンケートを実施するなどして慎重に検討のうえ、速やかに方針を決定することとします。